

令和7年度 第1回 広沢小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年5月15日（木）13時30分から15時10分
- 2 開催場所 広沢小学校1階 開放教室
- 3 出席委員 杉浦 友治 山田 谷一 川上 玲子
橋本 憲幸 宮本 慶子 平野 圭吾
橋本かずよ 佐々木 知成 加藤 いずみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 西部協働センター 石田 博基 横市 佳音
- 6 学校コーディネーター 矢野 貴恵
- 7 学校 浮田 佳昭（校長）、鈴木 俊彰（教頭）、中村 隆太郎（主幹）
天野 毅稔（CS担当教職員） 石川 由美（CSディレクター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 石川 由美
- 10 会長の選出及び副会長の指名
司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、平野委員から杉浦委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 11 議長の選出について
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉浦会長から加藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。
- 12 浜松市学校運営協議会規則等について
司会から、浜松市学校運営協議会規則の第3条・5条・6条・12条・14条の説明があり、委員全員が確認した。
- 13 令和6年度協議会自己評価の確認、令和7年度の目標
司会が、令和6年度協議会自己評価を踏まえて、令和7年度の目標を説明をし、委員全員が確認をした。
- 14 協議事項
 - (1) 令和7年度学校経営の基本方針について
 - (2) 「いじめ防止等のための基本方針」について
- 15 会議記録
司会の鈴木から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - (1) 令和7年度学校経営の基本方針について
議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき「学校運営基本方針」についての説明があり委員からは、以下の発言があった。

- 地域との関わり方ということで、先日行われたお祭りのときに、言葉遣いに疑問を感じる子がいた。周りの大人はどう対応すればいいのか（平野委員）
- 私たちの時代はしっかりと注意してくれるおじさんがいた。子供たちになると、学校であれば、先生と児童という立場で先生に指導されたとなる。地域の知らない方に注意されて、お祭りに来なくなってしまうのも困る。自分の子供の同級生とかであれば、親御さんの顔も分かっている、注意することができる。携帯を片手に、ゲームをしながら、お練りに参加している子もいた。感覚も時代もだいぶ変わってきていて、対応が難しい。（加藤委員）
- 自分の考えをあまり表明しない子も中にはいる。自分たちの頃は、お祭りにも自分の親が参加していて、よくないことをすると、親に恥をかかせるこ

とになると思っていた。今でも、親がお祭りに参加している子はしっかりしている。挨拶もしっかりできる。大人から見られていると意識しているように見える。地域が一体となっていた昔より、難しくなっている。十数年前は、親同士で意見の食い違いなどを指摘し合えた。親の顔が見えないのは、弊害になっている。親と子の距離が関係している。(佐々木委員)

- ・ 自分の嫌なことと相手がされて嫌なことが違う。多様化してきていると感じる。相手を思いやる心を育てていかなければならない。その点も踏まえて、本年度の学校運営方針の重点項目の一つに「かかわる力」を掲げ、教育活動を行っていく。特に「広沢宣言1」の「笑顔で気持ちのよい挨拶をし、マナーを守って行動します」を日頃から意識して生活していきたい。(校長)
- 挨拶ぐらひは町内でしていきたい。(平野委員)
- 兄弟が少ないのも関係しているのではないか。(杉浦委員)
- 見守り隊ではなくても、子供たちの声がすると外へ出てきて、挨拶をされているご年配のご夫婦の方たちがいらっしやる。今日は早いねとかやり取りをされている。(川上委員)
- 子供の声は良い。(杉浦委員)

(2) 「いじめ防止等のための基本方針」について

議長の指示により、教頭より、別紙資料に基づき「いじめ防止等の基本方針」について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- 立川市の事件をニュースで見た。いじめられていたという児童の母親に呼ばれて、瓶を片手に男二人が学校に侵入してきた。いじめにあった自分の子の意見だけを聞くのではなく、相手の親とすり合わせをして、学校に報告するのが良いと新聞にあった。ただ、今は相手の連絡先が分からないので、まず自分の子がという不安を学校にぶつけてしまう。(加藤委員)
- 幼稚園でもいじめはある。子供からだけではなく、担任や他の職員も交えて聞き取りをする。幼稚園の場合、小学校と違って、短大を卒業して21歳の若い子たちばかりである。そうすると、親からのクレームなどにまだ対応しきれないところもある。保護者からの話をうまく読み取れないこともあって、時間が経つと話が拗れていくことがあるので、今は最初から教頭も加わって対応をしている。いじわるといじめは違う。いじわるが毎日続くといじめに変わる。今、幼稚園では嫌と言える子供を育てている。ちょうど今朝、広小の子がそれっていじめじゃないという話をしているのを目の当たりにした。簡単にいじめという言葉が使われるようになっているので、子供の話ばかりを鵜呑みにもできない。先生方の御苦労お察しします。この前のような事件が起きないように対策をしていかねければならない。(橋本委員)
- ・ あの事件に関しては、教育委員会からも話があって、職員にも話をしたところである。子供の安全、教職員の安全を第一に、学校側の対応としても、危機管理の資料を基にフローチャートを確認しながら、一人では対応をしない。大人数で対応するという事に注意を払っている。(教頭)
- 親御さんにももっと理解を深めてもらうため、積極的に行事に参加してもらうために日曜日に行事を行うようになったという話を聞いたことがある。それがゆくゆくはヒーローズというお父さんボランティアにつながっている。ヒーローズに参加してもらって、親同士も親睦を深めると、トラブルの回避にも繋がる。最近は運動会も平日に行われるようになった。(佐々

木委員)

- 相談員をしていた時に、相談は必ず一人では受けない。訴えをしてくる方は、覚悟を持ってきているので、とことんこちら側は話を受けるという姿勢で聞く。話を聞いているうちに気持ちも落ち着いてくる。隣家とのトラブルも話を聞くことで落ち着いてくる。先輩は2時間以上真剣に向き合っていた。(宮本委員)
- いじめ防止等の基本方針の確認で、重大事態が発生した場合、第3者を加える → 専門家に変わった。この専門家というのは、学校ではどういう方が対応するのか。(山田委員)
 - ・ 学校としては、重大案件になる前に、SSW や SC に対応して頂き、御助言をいただいたことはあった。(教頭)
- 何かあった時の学校の対応として、家庭の方に直接会って、何度か話合いをしているというの聞いて安心した。(平野委員)

その他報告事項等

- 矢野CDから学校支援の取り組みについて説明があった。
- 教頭より以下の報告及び連絡があった。
 - ・ 夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について
 - ・ 次回の熟議内容の確認
 - ・ 学校行事への参観について

司会から、次回会議は、令和7年6月16日(月)13:30~15:30開放教室で開催する旨の報告があった。